

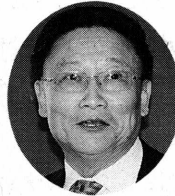
# 都市水利利用の知見披露

## 東大 再生水WSを開催

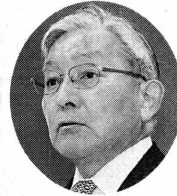
東京大学大学院工学系研究科附属水環境工学研究センターは1月14日、東京・文京区本郷の同大でワークショップ「持続的な都市水利利用に向けた再生水利利用への挑戦」を開いた。京都大学

院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センターとの共催で、再生水を都市水利利用に活用する意義などの共有を図った。西安建築科技大学の王

「イマ都市構築」と題し、気候変動や人口増加と都市化の進展といった背景を踏まえ、持続可能な未来都市を実現するために水循環管理が必要と強調。従来の人工的な水処



王教授



古米教授

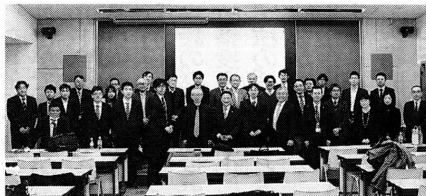


末久補佐



田中教授

理化から、自然の水循環を可能な限り維持し自然に従う「準自然水循環系」にパラダイムシフトしていくべきだと持論を展開。水循環による水再利用効率を最大化する分散化システムの取組みを紹介し、「都市は流域に依



産官学の関係者が集まった

存し、自然の水循環によって水資源が確保される。水循環管理は都市水計画の基本的原則」と結んだ。  
京都大学の田中宏明教授は「理論から実証へ・水再生水技術の開発と評価」と題し、一方通行の従来型水利利用から取水排水量を減らし、環境負荷を低減するカスケード型水利利用への転換に向けたポイントを解説。膜やオゾンといった技術の活用やウイルス削減など安全性評価について知見を披露した。  
国土交通省下水道部の末久正樹流域管理官付課長補佐は「わが国における再生水利利用の動向と将来」と題し、福岡県新宮町の再生水カスケード利用や熊本市の処理水の農業利用などの事例、ISO/TC282における再生水国際標準規格化について紹介した。  
東京大学の古米弘明教授は「将来の持続的な都

市圏水利利用システムの実現に向けて」と題し、戦略的創造推進事業の研究領域「持続可能な水利利用を実現する革新的な技術とシステム」における流域水資源、地下水、雨水、水質評価、水利用デザイン等の5グループの成果を紹介。再生水を意識した水質指標の創出に向けて、再生水の安全性評価が必要と持論を展開した。